

◆ 姫路市立神南中学校でバリアフリー教室を開催しました

神戸運輸監理部交通みらい室では、兵庫県内の小中学生を対象にバリアフリー教室を開催しており、自ら高齢者や障害者の疑似体験や介助体験をすることで、バリアフリーの必要性を理解するとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者や障害者に対して自然に快く「お手伝いしましょうか」と声をかけてサポートのできる「心のバリアフリー」を推進しています。

今回は、令和5年5月22日（月）と6月5日（月）に、姫路市立神南中学校において、1年生59名を対象にバリアフリー教室を開催しました。

同校の1年生を対象とした教室の開催は、平成26（2014）年度から始まり、今年度で10年度連続の開催となります。

バリアフリー教室は二日に分けて行われ、一日目は座学、二日目は車いす自走・介助体験、視覚障害者疑似・介助体験、ノンステップバスの乗降体験などの体験学習を行いました。



【姫路市立神南中学校】



【座学の様子】

座学の授業では、高齢者や障害者等が生活する上での障壁（バリア）、バリアフリーの取り組みや大切さについて学びました。

生徒からは、「高齢化がもっと進むとバリアフリーも必要になってくるので、点字ブロックの上に物を置いたりして、バリアを増やさないようにしたい」、「身の周りにどんなバリアフリーがあるのか探してみたい」「6月のバリアフリー教室が楽しみになった」等の感想がありました。

車いす自走・介助体験では、監理部のスタッフが操作方法や声かけの重要性を説明した後、生徒が2人1組となり、普段勉強している学校の校舎のスロープや段差、バリアフリースイレ等において、実際に車いすに乗って、自走体験と介助体験を行いました。

生徒からは、「車いすに乗ると、手を洗ったりトイレに行ったりするのが大変だということを学んだ」等の感想がありました。



【車いす体験の様子】



【視覚障害者体験の様子】

視覚障害者疑似・介助体験では、アイマスクを装着し、白杖を頼りに体育館内を歩行しました。

点字ブロックや介助の有無による歩行のしやすさの違いを体験し、点字ブロックや介助の必要性を体感しました。

生徒からは、「隣に人がいて声かけしてもらっただけで、少しは安心して歩いたり階段を登ったりできると体験してわかった」等の感想がありました。



【当事者との交流会の様子】

また、視覚障害の当事者の方との交流会も実施しました。生徒たちは視覚障害についての質問をし、当事者のお話にも真剣に耳を傾けていました。

生徒からは、「視覚障害にはいろいろな症状があるとおっしゃっていたので、詳しく調べてみたい」、「質問をして、自分がまだ知らない世界のことを知れたので良かった」等の感想がありました。

バスの体験学習は、神姫バス株式会社の協力を得て実施しました。

神姫バス株式会社のスタッフが講師となり、バスにあるバリアフリー設備の説明をしていただきました。また、生徒同士のペアによる車いすでのバスの乗降体験も行いました。

生徒からは、「車椅子やベビーカーの人もバスに乗ることができることを知ったし、バスについてマナーなども知れたので、これからも覚えておきたい」等の感想がありました。



【バス体験の様子】

神南中学校の生徒からは、バリアフリー教室の全体を通して、「学んだことを無駄にしないようきちんと生かしていきたい」、「もし障害者の人がいたら自分から積極的に声をかけて手伝いたいと思った」、「体の不自由な人が困っているのを見かけたときは、どういうところが困るのだろう、どういうところが怖いのだろうと考えて、相手が困ったり怖い気持ちにならない方法を頭で考えて助けてあげられるようにしていきたい」等の感想が寄せられています。

教室後のアンケートで、「バリアフリーの必要性が理解できたか」と尋ねたところ、生徒全体の約96%が「しっかり理解できた」「理解できた」と回答しました。

本教室で、障害者・高齢者の気持ちを理解するとともに適切な介助方法を学ぶことで、日頃からお手伝いしようという気持ちを持ってもらうことができたのではな

いかと考えます。

なお、同校では昨年度バリアフリー教室を体験した中学2年生が「トライやる・ウィーク」事業所先におけるバリアフリー探しを行うなど、バリアフリー教室をきっかけとして取り組みが進んでいます。

交通みらい室では、今後も様々な取り組みにより、「心のバリアフリー」の推進を図っていきます。

(企画推進本部 交通みらい室)